

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム もたい

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500055		
法人名	株式会社 福伸		
事業所名	グループホーム もたい		
所在地	〒029-4203 岩手県奥州市前沢生母字中道3番地2		
自己評価作成日	令和3年12月27日	評価結果市町村受理日	令和4年6月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○理念である「やさしいあいづち、こぼれる笑顔、感謝の言葉」を毎日唱和し、意識付けをし介護にあたっている。
 ○安全管理の徹底に努めている。(緊急時、水害時の訓練、避難訓練、感染症予防講習会参加)
 ○気持ちを一つにし同じ目標達成に向けて、全職員コーチング研修、管理者はコーチングの面談を講師と行っている。
 ○介護ロボット(眠りSCAN)を24時間使用し、利用者様の体調管理に努めている。
 ○新型コロナウイルス感染対策に緩める事無く、検温、行動履歴の記入の徹底、利用者様を感染させない、自身も感染しない、そして介護サービスの継続することに努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は民家の少ない田園地帯に立地し、遠く奥羽山系の山々を望み利用者や家族からは自然が感じられると評判が良い。利用者の平均年齢は87歳で、男性が5名女性が4名であるが、プライバシーに関する問題はなく、女性が困っているような時に男性が手を差し伸べてくれるなど、アットホームな雰囲気が見られる。施設の方針として働きやすく子育てしやすい職場環境に努めており、職員の休みの希望には柔軟に対応し、検診の際は交通費を支給するなど福利厚生が充実している。また、感染症対策として職員が話し合って手洗い場を自動水洗化に改善したり、研修会受講により、ゾーニングにも積極的に取り組んでいる。理念は朝礼で唱和しているが、自然に利用者も一緒に唱和するようになり、職員と利用者の良好な関係性を感じる。日々の生活では利用者の笑顔や感謝の言葉があり理念に沿ったケアを実践していることが結果として表れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年4月12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝に、理念を唱和し自分自身への確認、理解し実践している。アンケートをとり自分自身の問題点を振り返った。	「やさしいあいづち、こぼれる笑顔、感謝の言葉」とする理念を日々のケアに活かされ、利用者は我が家のように安心した生活を送っている。利用者自筆の理念を玄関や共有スペースに掲示し、朝の申し送り時には職員と一緒に利用者も唱和しており、一体感を生み出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住所が施設になっている利用者には、招待状が届いている。(敬老会)コロナ禍の為行事等も中止になり参加出来なかった。	コロナ禍前は高校生が慰問に訪れて百姓踊りを披露したり、幼稚園児の相撲の見学、地元の祭り等に出掛け楽しんできたが、コロナ禍以降交流は中止している。そのような中で介護認定職員に看護学生2名が実習で同行し、利用者はひ孫のような人との触れ合いをひと時ではあるが感じる事が出来た。地元の自治会には加入していないが、今後も地域との繋がりを大切したいとしている。	施設は民家の少ない田園地帯に立地しており、近隣住民との交流機会は比較的少ない。事業所及び地域行事を通じた従来の取り組みに加え、自治会に加入し、地域と交流し繋がりを深めるきっかけにすることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域等の行事が行われていなかった為出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一度も会議行われず、書面でのみ報告していましたが、色々な質問、意見等頂きそれを反映している。	コロナ禍であり、昨年来会議は書面での開催とし、会議資料を各委員に届け意見要望を聞くようにしてきた。委員の中には毎回の様に会議資料の内容について建設的な意見を寄せてくれたり、災害訓練に参加協力してくれ、事業所運営に理解を示してくれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所している方は、ほとんど認定申請の手続きを行い出向き疑問はケアーに繁栄している。	運営推進委員でもある市の担当者は、事業所運営の理解者であり、親切丁寧に対応してくれる。現在、感染症対策の一環として家族面会室の設置を、市の担当者に相談しながら進めている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム もたい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行っていたデイサービスとの会議は書面だけで行った。スピーチロックでは、その場でどうしたら利用者に通じるか考え方を教えた。	身体拘束をしないケアについて講演会等に出席した職員の報告なども含めて、2カ月毎のサービス向上委員会で話し合い理解を深めている。スピーチロックと思われる対応に気付いた場合には、お互いに間合いを見計らって注意指導するなどして、サービスの向上に努めている。玄関は、午後8時から午前6時までのみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体に及ぶ虐待は見られないが、スピーチロックに対しては聞かれた時には話方見直してもらえる事に努めた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度の言葉は知っているが、詳しくは理解出来ていないので、勉強会する必要性はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書に書かれている中見では理解できないと思うので、受診、面会等で話をし理解得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	中々家族様は、要望は言いづらいと思い、こちらから引き出す方法で行っている。それに要望が出た場合は皆で共有している。	家族の意見や要望は面会時に聞くことが多く、利用者が脱水症状にならないよう気遣って飲料を持参する家族もいる。家族には毎月請求書と便り(写真、生活状況、現金出納など記載したもの)を郵送し意見を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には、社長も参加し職員の声を聞いている。管理者もスキルアップの為資格習得の支援を行っている。コーチングの先生と管理者は面談をしている。	毎月月上旬に開催する職員会議には社長も出席し、職員の意見の反映の場としている。職員皆で話し合い手洗い場の蛇口を自動水栓に改善したり、感染症の研修に参加しゾーニングにも積極的に取り組んでいる。また、職員に資格取得や各種研修会への参加を促し、介護レベルの向上にも努めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談をして意見反映に努めてもらっている。管理者は声を聴き、アンケート等を取り本人の思いに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会があるときには、管理者が職員に呼びかけ参加して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中で、中々グループホーム協議会等に出れずでしたが疑問は電話にて対応し取り組んだ。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の段階で話をする事が一番大切でそこから色々な情報を共有する事に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当時は、本人はもちろんだが家族様の心情は計り知れないので良く話しあい安心に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時と期間が長くなると日々状態が変化するので、その時に応じて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その日の体調、精神的で気づいたときには、会話等で不安、不穏を取り除ける様に支援。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診後昼を一緒に過ごして来たりしていたり、家族様と色々な事を情報共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中で、中々面会等が難しかったが、オンラインで会話して頂いた。	コロナ禍以降、外出制限や隣接するデイサービスとの往来が出来なくなり、散髪で訪れる理容師との会話を楽しみにしている。家族等との面会はタブレットを使用し、オンラインで会話している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援している中で、利用者同士の関係性が見えて来るので見守りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療中心でホームで生活できなくなり、退去した場合は関係性は遠のいてしまっている。特養の場合は同系列会社の方から時々情報を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来そうな事は、こちらからコミュニケーション取りながら、一緒に行っている。意思疎通が難しい時には手振りで対応し無理の無い様に行っている。	利用者の9割は自分で思いや意向を伝えることが出来、入浴時やトイレ利用など周囲に気遣う必要のない所で思いや意向を把握するよう努めている。職員が共有しなければならない内容は、申し送りノートに記入し活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーション等を通じて改めての発見もありそれに暮らしに近い様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録に日中の過ごし方又は特変等を記録しそれを夜勤へ申し送り状況観察に努める。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月職員会議で個々に応じた支援の方法を見直したり工夫したりして話し合い支援に努めている。	入居時には既に入居している利用者の様子を家族にも見てもらい、管理者とケアマネージャーとの話し合いの中でアセスメントを行い暫定プランを作成している。モニタリングは毎月実施し、利用者の生活状況の変化に応じてケアプランを見直す場合には、カンファレンスで問題点を職員で話し合い、通院に同行する機会を利用し家族の同意を得た上で新たなプランへ移行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間等の様子は、申し送り又は、ノートに記入し全員で共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様、本人の思いを職員全員で共有し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域との交流が取れずに終わってしまった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診時には、ホームでの様子を(健康、生活面)報告し指示の元にもとずいて支援している。	利用者全員が同じかかりつけ医を受診している。受診は家族同伴を基本としており、バイタルを家族を通し情報提供している。利用者の口腔ケアで気になる点があった場合には、職員が歯科に同行し、利用者に寄り添ったケアを目指している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいるので、薬、処置等において対応し職員全員で共有している。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム もたい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療連携室の方と面談、電話をし家族様との情報共有し適切な支援ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に状態を観察し、家族との連携を密に医師の意見を元に考えて支援のあり方を決めている。入居時には、看取り指針を説明している。	入居時に家族へ終末期の対応として看取り指針等を説明しているが、現状は医療機関の協力体制が整っていないため事業所での看取りは行っていない。重度化した場合でも人口呼吸器の使用や延命治療は行わない等の意思確認書を利用者と交わしている。職員に看護職員が2名おり、今後も看取りについての研修を継続するとともに、前向きに取り組んでいきたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時にはまず看護師との連携をし管理者に報告し緊急時待機者を1ヵ月毎に決めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練だけではなく、水害訓練を実施し適切な対応が出来る様にしている。運営推進委員会の方にも参加して頂いた。	5月は消防署立ち合いのもと火災避難訓練と消火器訓練、8月は水害時避難訓練、10月は隣接するデイサービスと合同で地震と火災を想定した避難訓練を実施している。特に水害については過去に避難の経験があるだけに、実際に系列の事業所への全員避難訓練を実施している。市とも連携し避難上の注意点等の指導を受けている。	水害避難訓練後の検証から、10月に車椅子リフト乗降訓練を実施しており、具体的な取り組みを評価したい。夜間の避難においては、日中では予測のつかない事態が発生することも予想されることから、薄暮を利用した夜間想定訓練の実施や避難した際の地域との協力関係を築きながら、災害に備えることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に、利用者様の情報を聞きとり、又時には本人とのコミュニケーションから知り得た事は職員で共有している。	男性5名、女性4名が入居しているが、男女間の問題も無く暮らしており、女性が困っているような時には男性が手伝う場面も見られるという。利用者のプライバシーに関わるような話は周囲に配慮しながら聞くようにしている。共用スペースに二つのソファを置き、一人だけのスペースをつくっている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム もたい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動の制限をしないで、自己決定出来る様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事が食べられるタイムリミットはあるが、その人の起床、臥床に応じている。行動静止はしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病院受診、ドライブ等の時には希望の服を着用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事時には、味には気をつけ季節の物を提供しそこでコミュニケーションにも繋げている。 お盆拭き、テーブル拭きを手伝っている。	食事は職員の手作りのものが提供され、利用者はテーブルやお盆拭き等を手伝っている。夏には、流しそうめんや焼肉パーティがあり、利用者が焼き鳥を焼いたり、しその葉とり、とうもろこしむき等を手伝い、秋には手造りのかまどで炊いた芋の子会が喜ばれている。芋の子会では、火おこし係、味見係がいて、一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取等が一目で解る表を用い状態に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内自立出来ている人以外は、介助し変化時は共有し歯科が必要な家族通し訪問歯科に来て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を見て、トイレへの促しトイレの拒否見られた時は、時間をずらし再び声がけ等に努めている。夜間帯介護ロボットの離床、覚醒時によりトイレ誘導に努めている。	日中は排泄記録を活用しトイレに誘導している。夜間帯は、7名が眠りスキャン装置付きの介護ロボットを利用しており、睡眠、覚醒、脈拍、呼吸管理により、職員がタイムリーにトイレに誘導でき、失敗も少なくなった。現在、布パンツ利用3名、リハビリパンツ利用4名、おむつ利用2名となっている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方は、薬投与されていて状況により増減している。水分補給の促し等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間の入浴者の曜日は決めているが、その時の状態により曜日の変更をしている。	入浴は週2回、午前を基本としているが、利用者の希望により臨機応変に対応している。状況により入浴が困難な利用者には、2名の職員で入浴介助を行っている。浴室では、湯船にゆったりとつかりながら、職員と様々な話をする利用者が多く、この時間を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝共に、本人の希望、状態に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の中見が解る様に、薬情を近くに置いて理解出来る様にしている。症状の変化時家族様に報告し受診時に対応する様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをお願いした所、自分がやるもんだ、自分は出来るという気持ちで行っているのが見られる、それを大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの回りは、山、田んぼ、畑が多く天気の良い日は、散歩に出かける。無理な方はウッドデッキで季節を体感して頂いている。	利用者から希望をとり、お花見や紅葉ドライブに出かけたり、アイスを食べに行く、栗拾いを楽しむ等、感染予防に留意しながら、可能な範囲で外出機会をつくっている。天気の良い日には、散歩やウッドデッキでの食事や日光浴を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、事業所で管理している。時に食事時に「お金無いから」と話されている方には家族様に頂いている旨説明する様にしている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム もたい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話希望は見られないが遠方にいる家族様には年2回くらい様子を分かって頂く為に写真を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、トイレ等のに季節の花、作業中の写真等を貼ったりし季節感を出している。	施設はホール・居室とも床暖で、ホールにはテーブルやソファなどがゆったりと配置され車椅子でも楽に移動できるよう工夫されている。ホールや廊下の壁には四季折々の行事写真や作品が飾られ、特に職員が書いた利用者・職員の似顔絵は温かく、訪れる人の目を楽しませてくれている。利用者はお気に入りのテーブルやソファに腰掛け、職員と歓談する等してゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの東、西側に各1つずつソファが置かれ、一人になりたい時にはその場所を利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時前に、本人、家族様に普段着用しているもの、趣味にしていた物等持参して頂き不安を取り除く事に努めている。	広さ6畳ほどの居室に、ベッドと、クローゼット、エアコンが備え付けられ、壁、床とも落ち着いた色あいで掃除も行き届いている。持ち込みのテレビや椅子等のほか、壁には写真など利用者の思いの詰まったものが飾られ、日々の暮らしに溶け込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	タオルたたみ、作品等の写真を居室の戸に貼り付けている。		